

8. 普通畑の適性度分級システムの開発

農業研究センター 耕地利用部

要 約

耕地分類，耕地分級，耕地利用区分の一連の概念を導入して，普通畑の適性度分布手法を開発した。

背景・目的

自然立地条件に基づく普通畑の適性度分級を行う手法を開発するために，「耕地分類」・「耕地分級」・「耕地利用区分」の一連の概念を導入した。普通畑の適性度分級システムは地形に関するデータの他に，地力保全調査の各土壌統の代表断面の化学性16項目ならびに要因強度のデータ48項目をメッシュ化することで開発した。

内容及び特徴

広域な地域の作目選択ならびに技術改善の策定を支援するツールとして利用することができる。

- (1) 分級手順は取り扱う要因の強度区分を行う一次評価，部分適性を評価する二次・三次評価，そして総合評価を行う四次評価と段階的に普通畑の適性度を判定するものである（図1）。
- (2) 一次評価には土壌，地形，気象等の自然立地要因が取り上げられる。それに基づいて耕うん，地力発現ならびに侵食防止の難易性，根圏と同化生産の制限性の二次評価が行われる。三次評価では二次評価結果に得点を与え耕作性と生育性の適性度が判定される。四次評価では三次評価結果に同様な得点を与えて総合的な適性度の判定がなされる。
- (3) 普通畑の適性度分級システムはパソコンPC-9801VM，高解像度カラー・モニターとカラー・プリンターからなる。プログラムを起動すると項目選択画面があらわれ，任意の項目を選択することで各種段階の評価結果がメッシュ地図として出力される（図2）。

活用面と留意点

- (1) 国公立試験研究機関における地域研究分野の研究手法として利用できる。
- (2) 行政分野では，特に農業生産環境情報システム事業（日本土壌協会）に組み込むことで全国的に適用可能である。
- (3) 研究対象地域以外のところに適用する場合はメッシュ・データを構築する必要がある。将来的には全国規模で情報を整備して，栽培技術の普及の面での活用事例を蓄積する必要がある。

キーワード

耕地分類，耕地分級，耕地利用区分

（鳥越 洋一）

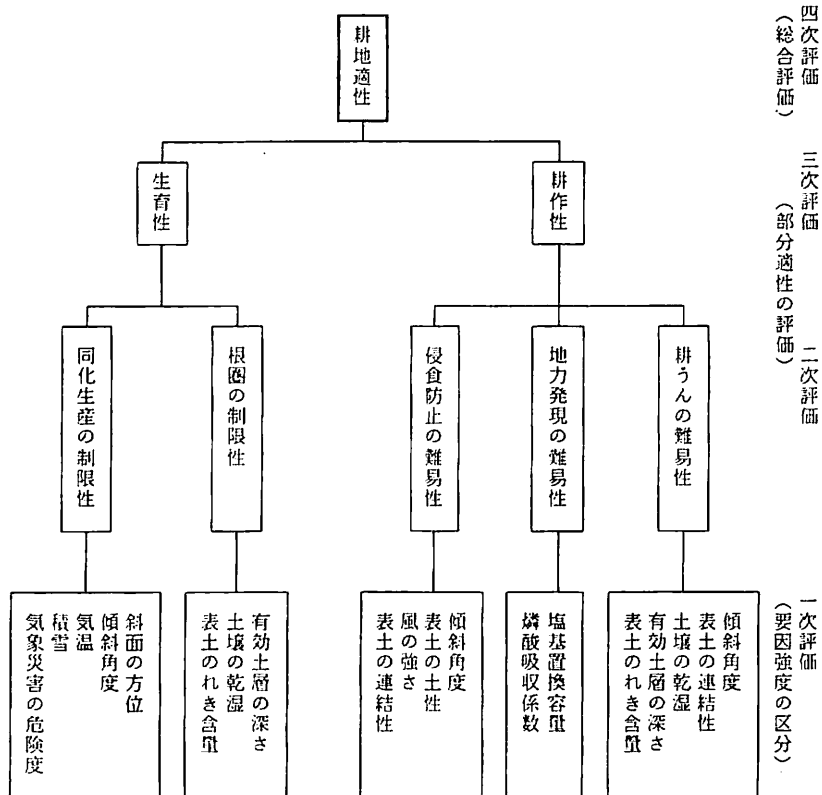


図1. 普通畑の適性度分級手順

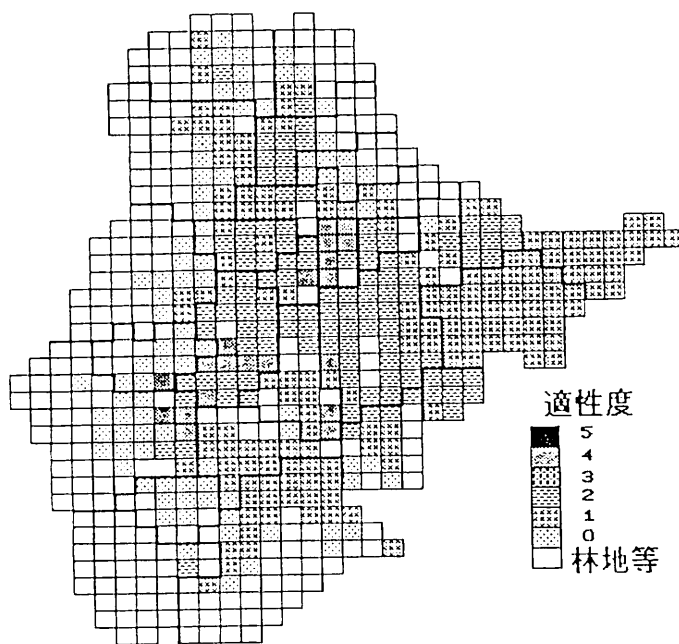


図2. 普通畑の耕地適性の評価結果
(茨城県八郷町の出力例)